

## 「緊急地震速報」

(2016)

この4月、突然やってきた「熊本地震2016」(被害額約4兆円)の凄まじさには驚かされた。20年前の阪神淡路大震災(10兆円)、5年前の東北大震災(17兆円)にも並ぶ規模だ。直下型地震による大地の横ずれ・地割れ、隆起・陥没、大規模の山崩れ・・・の状況を見るに付け、耐震技術を駆使して、大地・自然に対峙する人間の虚しさ・無謀さを感じる。

それにも増して、世界に冠たるこの近代国家で、10万人近い避難民が、寒さに震え、駐車場・公園で夜を過ごし、1〜2時間も行列に並び「水とむすび」の配給を受け、最悪のプライバシー環境・トイレ事情・ペット対策・ゴミの処理・感染症対策等に、唯々「我慢」し続けている大勢の人たち・・・。

それ以上に僕は、あの避難所の光景を目にするに付け、行列にも並べず・移動さえ困難な、弱者(老人・病人・障害者・乳幼児を抱えたママ・・・)達のがまず頭をよぎる。それに日本人特有の「やさしさ」で、瞬く間に集まる「義援金」や「支援物資」が山のように集積されてはいるが、効率的に避難民の元に届いていないのが現状である。県・市・町の職員達の懸命の奉仕も限界に近い・・・と思っていたら、2週間も経過した頃には、多くのボランティアも参加出来、律儀で几帳面な国民性でスムーズに稼働し始めたようだ。一方ではSNS(ライン、ツイッター、フェ

イスブック・…等を駆使した支援の広がりが思わぬ威力を発揮し、又、僕が毎日のように利用しているネット販売の「アマゾン」が、避難所の要望と義援希望者とを結びつけるという、非常に効率的で面白いマッチングシステムを始めた。時代の変化・情報力の可能性にもっと注目すべき時だ。そんな異次元の大地の波が、何と海峡を隔て、ここ山口県の僕の元にも届いた。『緊急地震速報』である。15年間の携帯生活、それに続く2年間のスマホ生活だが、お恥ずかしながら、この度初めて実感させられた。

4月14日21時26分、4月16日10時26分と1時29分の3回である。いつもの様にスマホをマナーモードにして、すっかり熟睡状態に入っていた最中、突然のサイレン音に続き「地震です!」、思わず飛び起きて身構えてしまったが、その後、約30秒後にグラグラと来た、今まで経験した事のない揺れ具合とサッシュ・ガラスの振動音がしばらく続いた。我が家は鉄骨造（柱はH100で細い?）でよく揺れるし、冬の間は3階のロフトで寝ているので余計に揺れを実感できる。幸い何の被害もなかったが、後で震度を見ると、3と4だったが、この地震のあと、何回かの微震が続き、体の中に妙な「揺れ感覚」が植えつけられてしまった。所謂、「[幻想振動症候群](#)」（[ファントムバイブレーション・シンドローム](#)）である

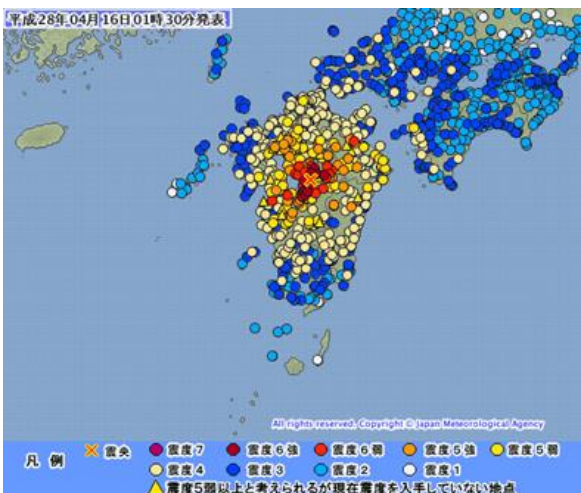
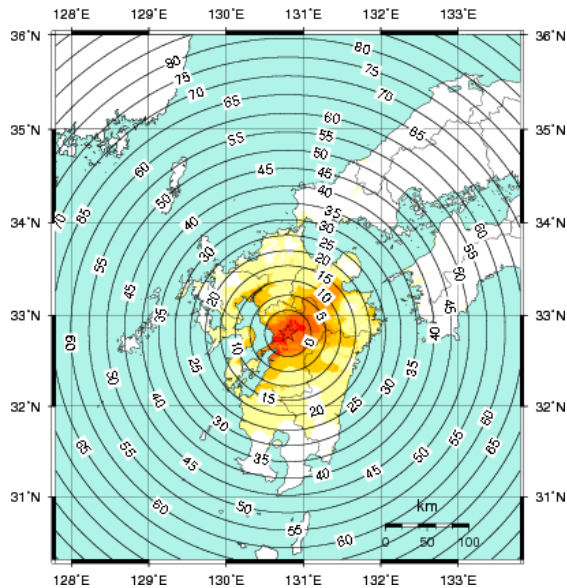
「ご当地熊本近辺では、あれ以来余震は千数百回を超えるようだが、こ

れは明らかに精神医学上、特に子どもたちの心身を大きく揺るがして  
り、慎重なケアが必要な状況にある。地面が揺れるという強い恐怖でパ  
ニックになり、更に慣れない避難所生活やストレスで自律神経失調症や  
PTSD、過呼吸の症状が蔓延し始めている。  
我が家でも、その後の数日間の余震・微振動に妻が異常に過敏に反応し  
ているようで、食事中の食卓での僕のいつもの「貧乏ゆすり」さえも、  
とうとう中止に追い込まれた。それに妻はあのサイレン音に異常に恐怖  
感を抱き始めた。

到達時間（秒）

各地の震度

4月ー6日、0ー時29分



この山口の地ですらそうだから、博多におられる皆さんや、増してい  
わんや、現地の方々の混乱振りたるや、いかばかりかと拝察致します。  
それにしても、この度初めて経験した（東京の皆さんはすっかりお馴染  
みなのかも知れませんが・・・）『緊急地震速報』の見事なシステムには

ホトホト感心しています。 全国の観測データ(約220箇所)により、地震の発生直後にデータを瞬時に解析し、震源や地震の規模・各地への到達時刻や震度を予測し・素早く知らせるというもので、地震波のP波(最初の波、秒速7km)とS波(二番目の波、秒速4km)の伝わる速さの差を利用し、強い揺れによる被害をもたらすS波の到着を予告する・・・という理論は以前から知ってはいたのだが・・・今になってこの技術には改めて驚かされる。 どんな深夜でも、まず何よりもあのサイレンの音(或る新聞記者はこの音を「ブファ・ブファ」と上手く表現していた!!)で叩き起され、首をもたげ・身構えるだけで、その後の5〜数十秒間で、ある程度の危険回避準備行動が可能なのだ。これはほんの小さな家庭での出来事だったが、考えてみれば、全国交通網、学校、工事・作業現場・・・等など、このシステムによる危険回避・人命保護の成果は計り知れないと思われる。これだけの規模の地震(数万棟に及ぶ家屋倒壊)で亡くなった方が50名程度ということは、ひょっとして物凄い成果ではないのか? 運用が正式に開始されて約10年が経過するが、そのリサーチ結果は聞いていない。

尤も、この度の熊本のように「直下型地震」の場合は、地震到達が「0秒後」などというどうしようもないシーンがご当地では何度もあったようだけど・・・

か弱い人間だけど、大自然に挑もうとする意欲は何時までも続く。